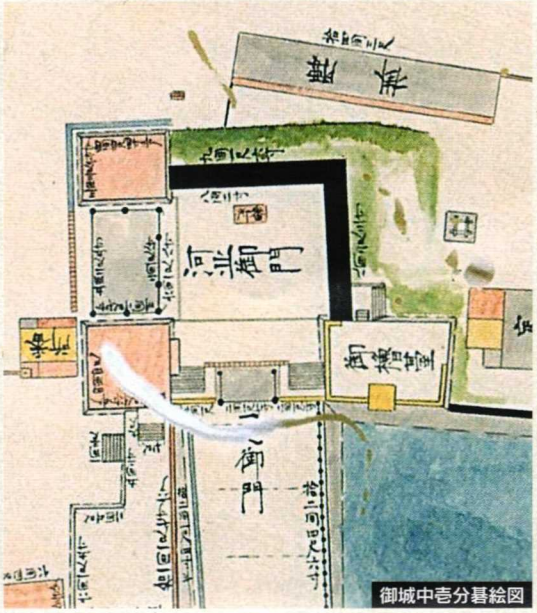
■河北門復元資料

天保元年（1830）の「御城中壱分碁絵図」や明治期の古写真は、河北門を復元するための重要な資料となっています。

また、埋蔵文化財調査によって発掘された礎石などをそのまま活用して復元しています。

明治期の河北門（金沢大学附属図書館蔵）



御城中壱分碁絵図

金沢城三御門関係年表

1583（天正11）	前田利家、金沢城主となる
1584（天正12）	利家、河北門より末森城へ出陣したと伝える
1605（慶長10）～15（元和１）	このころ河北門が枡形門となる
1631（寛永８）	寛永の大火。こののち二の丸に御殿を造営、橋爪門創建
1732（享保17）	河北門一の門石垣を修築する
1759（宝暦９）	宝暦の大火で金沢城の建物の大半を焼失する（三御門も焼失）
1762（宝暦12）	河北門の石垣を修築する。橋爪門再建なる
1772（安永元）	河北門再建なる
1788（天明８）	石川門再建なる
1799（寛政11）	地震で石川門や河北門などに被害
1808（文化５）	文化の大火により二の丸の御殿、櫓、長屋及び橋爪門焼失
1809（文化６）	橋爪門、五十間長屋、菱櫓の再建なる
1814（文化11）	石川門の修理完了
1881（明治14）	失火により二の丸御殿、橋爪門、五十間長屋等焼失
1882（明治15）	このころ河北門撤去される
2010（平成22）	河北門復元される

復元位置図

入館のご案内

■開館時間／AM9:00～PM4:30（最終入館PM4:00）

■休 館 日／年中無休

■交通のご案内

バ　　ス／兼六園下下車 石川門経由 徒歩5分
　　香林坊下車 玉泉院丸口経由 徒歩7分
　　尾張町下車 大手門口経由 徒歩15分

タクシー／金沢駅から約10分

自 動 車／北陸自動車道「金沢西インター」から約30分
　　北陸自動車道「金沢東インター」から約30分
　　北陸自動車道「金沢森本インター」から約20分

お問い合わせ

石川県金沢城・兼六園管理事務所

〒920-0937金沢市丸の内１番１号　TEL.076-234-3800　FAX.076-234-5292

http://www.pref.ishikawa.jp/siro-niwa

■金沢城河北門（かほくもん）について

「河北門」は、金沢城の大手から入り、河北坂を上がったところに位置する「三の丸の正面」であり、金沢城の実質的な正門です。現存する「石川門」と「橋爪門」と共に「金沢城三御門」と呼ばれていますが、金沢城の建物の大半が焼失した宝暦の大火（1759年）の後、安永元年（1772）に再建されました。

再建された河北門は、明治15年頃に無くなるまで金沢城の実質的な正門としての役割を果たしていました。

約130年ぶりに甦った河北門は、平成19年11月に着工し、平成22年4月まで約2年半の歳月をかけて完成しました。

復元にあたっては、現存する絵図、古写真、文献及び埋蔵文化財の調査結果を踏まえて、史実を尊重し、日本古来の伝統工法によって、戸室石による石垣積み、漆喰仕上による白壁、軸組をはじめとする木工事及び屋根鉛瓦葺きなど、構造・仕上部材の細部にわたり石川の匠の技が発揮されています。

二の門　高さ12.3m　幅26.9m　奥行8.2m

両側の石垣には、地元産出の戸室石を隙間無く積み上げる「切込接（ハギ）」とし、石材は1個1.0ｔ～1.8ｔの石を620個使用しています。門上部の２階櫓を支える梁は長さ11.8m、重量4.5ｔの欅材を使用しています。

二の門櫓部分（2階）の内部の壁や床などには檜の一種である能登ヒバが石川門同様に用いられています。

内部写真

河北門の構成

河北門は、「一の門」、「二の門」、「ニラミ櫓台」及び「枡形土塀」により構成された枡形の空間で構成されています。

城として搦め手（勝手側）である石川門も同様の枡形を構成しています。

枡形内部側写真

二の門（枡形内部側）

枡形内部側が二の門の正面となり、石落し付きの出窓が設けられています。

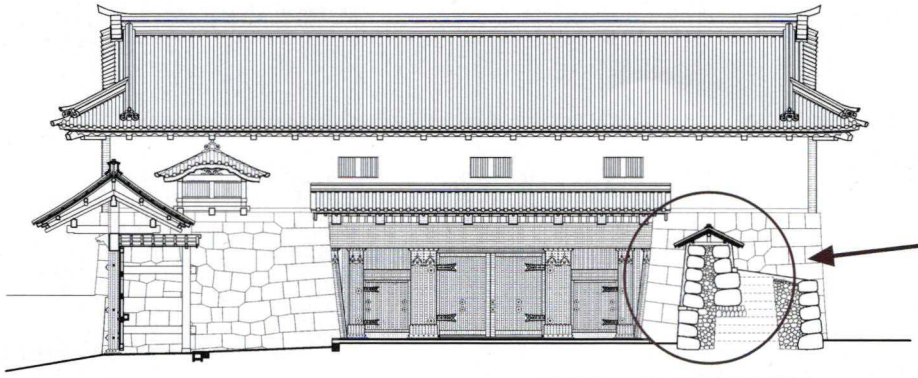
門扉、柱、梁には厚さ３ミリの鉄板（帯鉄）が鋲で留められており、門としての防御能力が高められています。一の門側の壁面には石落を備えた出窓が設けられています。

一の門

一の門は、三の丸に入るための最初の門であり、幅4.7m、高さ7.4m総欅造りで、脇土塀を海鼠壁仕上げとし、土塀の内部側には隠し狭間が設けられています。戦の時には狭間外側の海鼠壁を破って鉄砲狭間として使えるようになっています。

ニラミ櫓台

宝暦の大火で焼失した河北門は石川門と同様に２層の櫓がありましたが、安永元年に再建された河北門では、出し（出窓）付きの土塀によるものとなり、これを復元しています。



枡形土塀（隠し石垣）

河北門の枡形土塀は古文書で「城内で唯一のかくし石垣」とされていたことが確認されたため、内部は石垣積み、仕上げを漆喰壁とし、外観からは石垣造りであることが判明しない構造になっています。

河北門 二の門 西側立面